

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 東京都立杉並総合高校

種別 高等学校

住所 〒168-0073 杉並区下高井戸5-17-1

E-mail : Akihiko_Fujino@education.metro.tokyo.jp

Website : www.suginamisogo-h.metro.tokyo.jp/

生徒数：男子 203名 女子 504名 合計 707名

児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（国際交流）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

普通にできる国際交流：スギソウ組チームF 東奔西走（右往左往か？）

杉並総合高校（以下スギソウ）は都立高校が普通にできる国際理解教育を推進し、「市民感覚」の相互理解を深めてきた。統廃合母体校の都立永福高校から引き継いだオーストラリア・シドニーのフォート・ストリート高校：FS校とは都立初のオーストラリア姉妹校との相互訪問が25年以上続いている。隔年で20名程度が相互訪問するなど国際交流のパイロット校的存在である。特に姉妹校のプログラムはその後の都立高校の交流事業の基礎を築いたものである。実際、国分寺高校が姉妹校を始める際に参考にした国際高校のプランはここをベースにしていた。また、持続可能な地球社会の発展（ESD）を考え、学校設定科目の「国際ボランティア」なども開設し、ユネスコスクールにも4年前に加盟（都立では他に三

田高校のみ) させていただいた。また、杉並区教育委員会の照会から始まった St. Aloysius Technical School 内思高級工業職業学校(台湾 新竹市: 短期留学生受け入れと修学旅行で訪問)とはテロ事件の余波で実施できなくなったマレーシア修学旅行からの企画変更から姉妹校関係提携にも発展した。毎年受け入れている国際交流基金の JENESYS: 中国高校生訪日団など、毎月のように海外(台湾、韓国、中国、米国、スウェーデン)から多くの高校生が来校し、その都度スギソウでは生徒会・国際交流委員会を中心に交流を深めてきた。

他にもイタリア、メキシコ、オーストラリア、ノルウェー、デンマークなどからの長期留学生に加え、台湾からの短期(3 か月)留学生、フランスとの相互交流(コリブリ)生徒が来校。授業やクラブ活動への参加を通し、それぞれの留学生との直接的な交流からも、日常の中に国際交流が存在する。この意味からも「SGH: スーパーグローバルハイスクール」でもなければ「東京グローバル 10」でもない中で、実質的には**都立高校で一番「グローバル」な実績**を持っているのではないだろうか。いや、これまでユネスコの全国大会などの国際交流を担当している関係者から「**日本で一番**」かもしれないといわれることが多々ある。

更にこれらの交流経験を活かして、一昨年の国際交流基金カケハシプロジェクト「スギソウ組北米巡業: 12 名で日本文化の伝道活動」の経験を応用して様々な企画を運営してきた。受け入れは当然として生徒を「外に出す」努力を続けてきた。文部科学省の「トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース第二期生」では昨年の 8 人に続き、本年度は 9 名が選抜された。人数だけでなく募集 4 分野全てに合格し、派遣先もアメリカ合衆国 4 名、韓国 2 名、カンボジア 1 名、インドネシア 2 名に広がった。またトビタテ組以外にも自己負担で参加したスピンオフ組(インドネシア中部ジャワ州の孤児院への渡航経費等の必要経費は自己負担で 5 名が参加: **またこの参加者が 3 年目のトビタテにも応募という、持続だけでなく拡大サイクルに入っている**)も含めての「**新しい段階**」に到達した企画になってきている。また昨年の活動を更に工夫して「**持続・継続可能な**」展開を見せている。もちろん担当としては書類作成・企画立案アドバイス・実施運営上での安全管理等で忙殺されることになる。

義務制学校のような「学校全体としてのアプローチ」は難しいが、担当者個人や教科全体としての工夫や指導・文化祭での報告会と併せて、「エヴァンジェリスト: 布教活動」の一環として学校外部の懸賞論文やプレゼンテーションコンテスト等への積極的な応募への指導を続けてきた。このような学校内外での積極的活動は文科省の選考前提条件であるだけでなく、参加した生徒にとっても卒業に必須の「課題研究」や進路指導に関連付けることで、「教科」を超えた「成功経験」やメタ認知に連なる実践的な学習活動になったことを確信している。

そこでこれらの「活動体験」を通して気づいたこと以下に整理する。

- ① 「総合高校」であることから、「進学指導」の枠から外され、中学校や受験産業の進路指導の結果としての「負の遺産」も少なからず抱えており、単純に突破できない問題も多く存在する。特に過去の学習経験の中では「成功経験」が乏しく自己肯定感が著しく低い生徒が存在する。しかしこれを各教科の中でも増やしてやる必要があるのだが、これまでの学習の積み重ねや本人の努力不足などもありその機会を提供することは難しい。また、総合学科の教員の構成や経験などの問題も少なからず存在している。しかし、生徒の多くは真剣に何か努力したかったり、熱くなれる活動を求めて模索しているが、うまく見いだせ

ない（教員側も何をしてあげたら良いかわからない）、もしくは残念なことに対応できないのが現状である。その結果として唯一の活躍の場がクラブ活動やアルバイト（もちろん家計を助けるという意味もある！）しかない生徒も少なからず存在する。

- ② 「成功経験」不足の結果として、少なからぬ生徒が自分の可能性の限界を低めに設定している。しかし、社会的な関心は高く何か貢献できないかと真剣に考えている。献身的な美しい心、無償の愛の心を持った生徒も少なくない。これは進学校の生徒の一部が計算づくの中での国際交流やボランティア活動に参加していることとは対極にあるだろう。これでは「国際ボランティア活動」のような、発展途上国や貧困問題など社会的課題のある状況に生きる人々に対して失礼であるばかりか、彼らの苦勞を利用しているのではないだろうか。

そればかりか、打算的と一方的に批難するのはよくないかもしれないが、自らのAO入試に有利であるから、その実績づくりとしての応募や参加も少なくないと聞く。また海外と言っても、欧米など安全な場所（国）での活動に参加するという「現場」を見ない「頭だけ」の活動を選択する生徒が多い。敢えて過酷な条件の場を希望するスギソウ生には頭が下がる。来年度もインドネシアの企画は継続したいし、ネパールでの病院でのボランティアなどの企画で6名がトビタテに応募している。もちろん「模擬国連」や「何チャラオリンピック」、「何とか国際ユースキャンプ」などは主催者や開催地が欧米であったり、参加者も欧米の生徒が中心であることから使用言語が英語中心であったりもする。しかし選考基準が英語力だけであったり、一般的な学力（評定平均等4.0以上とかの制約がある）による選抜であったりでは、選ばれる可能性のない生徒達に活躍の場は無いのであろうか。

- ③ また、健康面や肉体的・精神的耐久力など総合的な観点から見た人財の確保こそ、真の意味での「グローバル人財」ではないだろうか。例えば、インドネシアであれば熱帯の病気（ Dengue熱や下痢など）にも罹患しながらもなんとかそれを乗り切った。うだる様な暑さの中、寝床をはい回る5、6匹のゴキブリや腕程もある大きなネズミと日夜格闘する孤児院での活動で、現地の人と同じ環境で寝食を共にするということができる高校生が日本にどれだけいるだろうか。また、これだけ日韓関係が悪化した現在（従軍慰安婦問題や竹島（独島）問題など）でも、単身で韓国のローカル社会に飛び込み、現地の高校やダンススクールで頑張れる高校生はどれだけいるだろうか。また、こういったマイナスの状況を楽しむように克服したスギソウの生徒らにも感心・感服する。海外といえど欧米や英語圏という固定概念が生徒だけでなく保護者にも多い中で、非英語圏での活動に飛び込む勇気と、それを認めて応援してくれる保護者がいてこそのものである。また第二外国語のスペイン選択者がイスパニカ文化経済交流協会（カスティリヤ・ラ・マンチャ州政府が主催の奨学制度）のサポートを受けて第1陣が3月に、スペインのクエンカ市へ出発します。また、第2陣は奨学金の関係からも8月に出発できればとトビタテに3名が応募しています。その際には、これまで実施してきた「芸能スギソウ組＝カケハシプロジェクト下記④」西班牙巡業を計画しています。

- ④ 上記③との関連から、保護者や卒業生の存在と併せてこれまで構築してきたネットワークとの連携も大切である。当然、安全と健康管理には十分への配慮

し、現地 NGO、日本側 NGO、本校の 3 者で連絡を取りながらバックアップ体制を構築してきた。また、これには単身ではなくスギソウという集団としての活動で乗り切っている要素も大きい。また、高校生だけでできる事の限界や、留学斡旋企業の営利活動ではできない交流を、彼ら NGO とそこで協力してくれる現地の若者達がいって実現が可能になった企画である。この現地協力者はスギソウの貴重な財産である。また本年のアメリカや韓国での活動も、これまでスギソウに来校してきた現地高校生やその保護者の協力なくしては実施できなかった。まさに「市井の国際交流」である。実際、文科省が選考段階で要求する「アンバサダー活動＝日本文化の紹介」を高校生だけ実施しようとしても、会場や宣伝などの問題から無理がある。また、高校生や斡旋企業が集められる現地の情報やコネクションには限界がある。スギソウ生以外の参加者への聞き取りではうまく活動が実施できていないという。これに対して本校ではカケハシプロジェクトで試行錯誤し、また現地で「生の高校生による活動：舞踊や生け花、高校生の生活を紹介するスライドショーなど」アメリカの高校で好評を得ていた経験からも、これらを応用・昇華させて New York の Japan Foundation での高校生との交流会や、各地の現地中等学校等での交流企画を展開してきたのである。

- ⑤ 続出するスピンオフ企画にも配慮と関与が必要である。特に姉妹校関係で相互訪問が進む中で、個人レベルでも相互訪問を進めているケースが増えてきた。特に長い歴史のあるシドニーの FS 校とは個人的な交流であれ、できるだけ何らかのアドバイスと情報提供に努力している。自主的に受け入れてくれたホームステイ家庭同士の調整や対応にも協力している。またこれらの家庭はある意味同志的なつながりにもなることから、PTA や卒業生を巻き込んだ対応が必要であると思う。また、この結果 FS 校の生徒にとっては第二の母校的存在としてスギソウを見てくれており、来日の際は必ずと言ってよいほど来校して生徒達と交流を深め、短期とはいえ授業等に参加して行く生徒も多く存在する。
- ⑥ 本校は総合学科というある種「特殊な環境」での教育機関ではある。特に予算面や人事的側面（新規採用者や若手、育休・産休者が多い）に課題もあり、学校側でできる事の限界もある。このことから、これまで指導してきた卒業生や上級生の活用（プレゼン資料の作成と報告活動への指導・助言）、PTA や外部人材の協力者の確保なども今後の課題である。また、常に情報収集と実際に指導できる人材＝教員の確保を継続するとともに、これらの企画を実施するに当たっては財政的な「実弾」も必要である。もちろん優秀な生徒という「鉄砲」も必要ではある。中学校段階での指導や受験産業等の外部的なマイナス要因が多数存在する。本校の生徒などの様に「義務教育の犠牲者」のような生徒がすくなく存在するのは否定できないだろう。しかし、この二つは学校側や教員だけでは対応できない部分である。

幸い本年は（も？）、次世代リーダー（東京都の補助金を入れた 1 年間の留学事業）での開会式や交流会（国際交流サミット等）では、代表挨拶等もさせていただきました。このあたりは都教委の中でも本校がユネスコスクールであることや国際交流を重視している学校としての配慮があったのかとも思い、担当者としてはうれしい限りである。しかし、居並ぶ優秀な中高一貫校や伝統的進学校、英語

の得意な都立国際高校などの生徒や担当者の教員・管理職等を差し置いての場であることから、生徒以上に担当者は緊張しました。また、本年はトビタテ留学 JAPAN で参加したインドネシアでの「国際ボランティア」の経験をもとに参加した作文コンクールでの文部科学大臣賞受賞や、弁論大会など本校生徒の活躍や、卒業後も大学や専門学校等で国際的な活躍の場（大学の英語スピーチコンテストで上位入賞）も多数頂けた。これは本校の学校方針の一つである「生涯学習」の成果でもあるだろう。これまでの努力が少しずつではあるが実ってきたかと思うとうれしい限りである。特に、本年トビタテで応募しているスペイン組は大学生になった卒業生の協力・協働で企画を考えている。大学側のトビタテ応募とコラボを計画しているが、これが実現できれば高校を超えた新たな段階に上れるのではないだろうか。また、これが可能なのも本校の生徒達（当然卒業生を含む）の能力ともいえよう。

また、教員側でもユネスコスクール全国大会（@金沢大学）でもユネスコスクールとしての本校の活動の報告を行った。特にユネスコ教材を活用した世界史の授業（奴隷貿易反対運動と現代の奴隷:強制・児童労働、trafficking）やこれまでの国際交流活動：日韓、日中、日台でのコラボ世界史授業などを紹介させていただいた。

本年はユネスコスクール ESD アシストプロジェクトでサポートを頂いたこともあり、交流会や報告会等の企画に利用させていただいたことは大変ありがたかった。このサポート無しでは現地での交流会やその後の報告会（東京都国際交流研究会、東京都総合学科発表会、杉並区教育委員会など）での発表はできなかっただろう。生徒も担当者も感謝の気持ちでいっぱいである。また、海外からの高校生来校時には東京観光財団からも交流グッズなどのサポートを頂いている。できれば民間を含めて更なるサポートを期待したいところである。どなたか情報や紹介いただければ大変ありがたいと思っている。

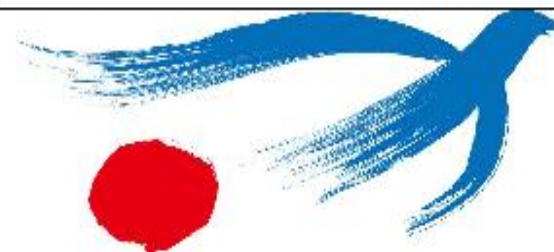
現場でできる事は最大限やってきました。あとは東京都と日本国政府（含む文部科学省ですよ！これまでもご配慮いただいていると思いますが、）としての配慮と工夫を頂けたら、担当者としてはより良い成果が期待できると確信している。持続可能な活動にする為にも格段の御配慮を頂ける事が切なる思いでもある。

今年も行きます！杉並総合



昨年に行ったインドネシアの孤児院での活動の他にも、今年度は米国、カンボジア、韓国など多方面にわたる応募が18件ありました。文部科学省の一次審査は全員無事通過し、第二次審査（面接）で何人通過できるか！

他にも国際交流企画：ASIJ、内思高校（台湾、来校・修学旅行で訪問）、都立高校初の姉妹校フォートストリート@Sydneyへ訪問）など目白押しです！



トビタテ！ 留学JAPAN

その経験が、未来の自信。



今年も来ました



一緒に遊んで・学んで！姉妹校関係
締結 with St. Aloysius Technical School



海外企画報告会@国際理解教室
9月10日(土曜日) 1時、
11日(日曜日) 12時30分
より開催します。



今後参加を希望する生徒や、各企画の参加者
(FSH、姉妹校交流、トビタテ、セマラン孤児
院：スピンオフ企画!)の保護者の方は彼ら
の活動報告を是非聞いてあげてください。

テーマ別交流研修会(5)教科とのリンク 世界史(ユネスコスクールを意識した教材 =TST:奴隷貿易など)と国際ボランティア

市民講師NICE: 日本国際ワークキャンプセンター(NGO)

代表との協働授業(市民ボランティア活動: 難民・ホームレス・海外援助・被災地等・食糧問題)など 高校生が活動できるボランティア活動とは何か考える参加型授業

「調べ学習」と発表及びゲスト講師の参加など



Whole Fujino approach

個人的経験+資質+自己研修

家族・縁・交友関係
知力・体力・時の運
語学力+異文化対応能力
高校(米)大学(NZ)時の留学と
その後の研究生生活
(社会科教育:比較教育学)
学芸(M)、都立大(D)
IB認定教師(World History)

教師としての仕事: 教育学・教育行政
校内分掌: 教務部国際交流(送り出し、受け入れ)
カケハシ、トビタテ、JENESYS、DDD(韓国)、YFU、
アユサ(米) コリブリ(仏) 他留学団体、研修組織
姉妹校締結(国分寺・豪州、国際韓国、杉総・台湾)
次世代リーダー(東京都留学プログラム)
来年度はスペインへも

教科: 社会科(地歴科: 世界史)

生徒参加型授業の提唱、資料読み取り(言語指導: 英・中・仏)+
映像(動画・写真・絵画)、音楽(宗教・古典からロック、ポップ)

学校設定科目: 国際ボランティア@杉総

: 社会生活@国際高校(社会的少数者や
LGBTを扱う=日本で最初のはずです)

日本社会科教育学会 全国公民教育学会
他(教員研修や研究会活動)

新採

底辺校

定時制から苦節12年

単位制進学校

専門学科(国際)

総合学科(杉総)

定年まで7年(異動あり)

Team Fujinoの構成要素

- * 教科: 世界史B or A (演習) 生徒参加型+イメージョン
- 英語で世界史(TST)など海外教材、中国史を姉妹校(台湾)やJENESYS(中国)と同じ教室で「藤野先生で学ぶ」
- * 国際ボランティア(難民・ホームレス他・「調べ学習」)
- * 課題研究(卒業論文1単位相当)
- * 国際交流委員会(受け入れ歓迎会・留学生)
- * クラブ(ダンス部昨年度まで主顧問)
- * カケハシ(芸能杉総組北米巡業) * 海外ボランティア
- * トビタテ留学JAPAN(インドネシア、アメリカ、韓国、カンボジア)
- * 懸賞企画(論文等)への参加

マイプロジェクト事務局(認定NPO法人カトリック)

先生!これに出なきゃいけないのですが、公欠にできますか?

JICA主催の「グローバル教育コンクール2014」過日に最終審査会を行い、御校の作品が「団体奨励賞」を受賞されることとなりました。おめでとうございます!

公益財団法人 西井平和財団

理事長 西園寺 裕

文科大臣賞受賞

2016年度国際ユース作文コンテスト入賞内定通知

2016年度国際ユース作文コンテストの選考の結果、著者の氏名

において文部科学大臣賞(最優秀賞)に内定したことを通知する。

東京都国際教育研究協議会 国際理解及び国際協力に関する生徒研究発表会平成

28年10月29日(土) 午後2時から5時30分

進路・卒業後の大学や専門学校での活躍 職業選択への影響と反応
世界に羽ばたく(羽ばたきたい)



国際ボランティア大賞2015<ボランティア部>>+☆グランプリ☆+ 山下未玖さん
孤児院で衛生教育や環境教育



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（国際交流委員会、宿泊防災訓練1年生、修学旅行委員会）